

2020年度 庶務報告

〔1〕 会員異動

2020年度末における会員総数は8,156名である。

内訳 医師6,779名、歯科医師65名、薬剤師667名、鍼灸師387名、
研究職21名、看護師会員12名、特別会員39名、賛助会員186名。

2020年度中の新入会員は126名、退会者は377名であった。

〔2〕 会議

2020年度における会議は次のとおり行われた。

理事会 6回

社員総会 1回

各委員会における会議開催は、それぞれの委員会の事業報告に記載した。

〔3〕 各支部との交流

北海道支部会

新型コロナウイルス感染蔓延の

ため延期

東北支部会 (Web配信)

2020年11月8日(日)

伊藤 隆会長講演

高山 真理事講演

関東甲信越支部会

新型コロナウイルス感染蔓延の

ため延期

東海支部会

新型コロナウイルス感染蔓延の

ため延期

北陸支部会 (石川市)

2020年10月18日(日)

関西支部会 (大阪府)

2020年10月18日(日)

中四国支部会

新型コロナウイルス感染蔓延のため

延期

九州支部会

新型コロナウイルス感染蔓延のため

延期

2020年度 事業報告

機関誌発行事業

〔1〕 編集委員会 (担当理事：貝沼茂三郎、委員長：植田圭吾)

1. 学会誌を下記の通り発行した。

第71巻第2号 2020年4月

第71巻第3号 2020年7月

第71巻第4号 2020年10月

第72巻第1号 2021年1月

2. TRADITIONAL & KAMPO MEDICINEを下記の通り発行した。

Volume7 Issue1 2020 2020年4月

Volume7 Issue2 2020 2020年8月

Volume7 Issue3 2020 2020年12月

3. 2020年7月10日、11月13日、2021年3月5日の計3回委員会の開催と、4月19日、5月22日、6月11日、8月13日、9月25日、12月23日、2021年2月10日の計7回メール会議を開催した。

調査研究事業

- [1] 健康保険担当委員会（担当理事：金倉洋一、副担当理事：矢久保修嗣、委員長：玉嶋貞宏）
 1. 新型コロナウイルス感染蔓延のため、委員会の開催を行えなかった。
 2. 伊藤隆会長、久永明人常務理事が田村厚労大臣と面接し、漢方はコロナ対策にも有用であり、医療における漢方の必要性を説明して理解を求めた。
- [2] 学術教育委員会（担当理事：喜多敏明、委員長：福沢嘉孝、副委員長：南澤潔）
 1. 2020年6月24日、7月29日、9月30日、12月3日、2021年3月3日の計5回委員会の開催と、大学教育支援WG及び情報発信WGを開催した。
 2. 情報発信事業を推進するために、プライマリ・ケア関連の医師に向けた「漢方に対する疑問点のアンケート調査」を実施し、その結果をもとに本学会として発信すべき情報をQ&A形式で整理したうえで、パブリックコメントを募集した。
 3. 第11回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会において共同企画を開催した（2020年7月23日～8月31日：オンデマンド配信）。第21回日本病院総合診療医学会学術総会（2020年9月26～27日）のシンポジウム「急性期・病棟での漢方診療」において講演した。また、2021年5月に開催される第12回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会における共同企画と、2021年9月に開催される第117回日本精神神経学会学術総会における一般シンポジウムの準備を進めた。
 4. 学生の活動を支援するために、2021年8月に開催される第71回学術総会において「東洋医学」研究会・サークル交流プログラムをオンラインで開催すべく準備作業を進めた。
 5. 医師国家試験問題の公募についての協力依頼に対して、過去に委員会で作成した問題を基に内容を検討し、一般問題3題、臨床問題2題を作成・登録した。
- [3] 鍼灸学術委員会（担当理事：若山育郎、副担当理事：高山真、委員長：篠原昭二）
 1. 第70回学術総会期間中に実施した「医師・鍼灸師を対象とした鍼灸に関するアンケート」の成果を日本東洋医学雑誌に投稿した。
 2. 日本経絡経穴研究会の活動に協力した。
- [4] EBM委員会（担当理事：元雄良治、委員長：小暮敏明）
 1. 2020年9月23日に委員会を開催した。
 2. 漢方治療エビデンスレポートEKAT Appendix 2017、Appendix 2018について、2020年5月、6月にそれぞれホームページに公開した。EKAT 2019については、前書き部分を作成中、Appendix 2020については構造化抄録（SA）を作成した。
 3. 漢方製剤の記載を含む診療ガイドラインKCPG Appendix 2020を2021年3月、ホームページに公開した。
 4. 漢方製剤情報サイト「STORK」のホームページについて、JP17の第一追補、第二追補の内容（英語版）を追加公開した。
- [5] 用語及び病名分類委員会（担当理事：星野卓之、副担当理事：並木隆雄、委員長：津田篤太郎、副委員長：奥見裕邦）
 1. 日本WHO-FIC協力センター協力ネットワークの一員としてWHO国際分類の適切な導入及び普及に貢献する。
 2. 日本医学会など外部団体の用語及び病名分類の監修協力を行う。
- [6] 漢方医学書籍編纂委員会（担当理事：並木隆雄、委員長：天野陽介、副委員長：新井信）
 1. 2020年8月7日、9月4日、10月9日、11月6日、12月11日、2021年1月15日、2月12日、3月12日の計8回委員会を開催した。
 2. 『漢方用語辞書（基本用語）』発刊について2020年4月末には納品され、amazonなどのネットでも販売された。

3. 上記辞書の発刊を以て2020年7月5日理事会の決議を得て、委員会名称を辞書編纂委員会から漢方医学書籍編纂委員会に変更した。
 4. 『Introduction to Kampo』の後継書となる英文書籍を作成するため、その元となる日本語教科書『漢方医学テキスト（仮）』を2021年6月までに完成するような目標として作業を行う。改訂する書籍は『学生のための漢方医学テキスト』と『専門医のための漢方医学テキスト』の間のレベルとなる内容にすることが確認された。
 5. 生薬の薬能についてのワーキンググループの成果物が上記書籍に反映された。
 6. 上記日本語版の教科書に関して、2021年1月時点の原稿につきパブコメ募集（2021年2月）を実施した。
 - ・和漢医薬学会、全日本鍼灸学会、日本生薬学会にパブコメ募集の周知。
 - ・会報2021年1月号に掲載予定のパブコメ募集依頼文を確認した。
 - ・盗作防止等の観点から、パブコメ募集は学会会員専用ページ内で行った。
 - ・パブコメと同時に書籍名も募集することが提案され、承認された。
- 〔7〕生薬原料委員会（担当理事：三谷和男、委員長：山岡傳一郎）
1. 日本薬用機能性植物推進機構（JFPPA）において、4名の委員が講演を行った。
 2. 現存する薬草園についての保存、育成のため、森野旧薬草園の2021年春季展覧会に協力した。
 3. 諸問題に関連する識者からの意見を取り入れることを模索した。

学術交流事業

- 〔1〕国際委員会（担当理事：矢久保修嗣、副担当理事：若山育郎、委員長：小川恵子）
1. 2020年11月29日、2021年2月6日の計2回委員会を開催した。
 2. 2021年2月14日に、ISJKMとの交流をZoomで行うことを決定した。
 3. 2022年のISJKM開催につき、議論しながら進めていくこととし、2月14日、3月14日の2回会合を開催した。また、2021年4月以降も継続的に2か月おきの会合を設けることとした。
 4. 新たに、木許泉（広瀬クリニック）、本川哲也（静岡県診療所）の委員委嘱をお願いした。

学術総会・支部事業

- 〔1〕第71回学術総会（会頭：三瀧忠道、準備委員長：中村東一郎）
1. 新型コロナウイルス感染蔓延のため、開催を1年延期した。
- 〔2〕支部総会
1. 全国8つの支部における支部学術総会及び都道府県部会（学術講演会）は、新型コロナウイルス感染症蔓延のため、3つの支部では支部総会を開催したが、他の支部は延期とした。

認定事業

- 〔1〕専門医制度委員会（担当理事：柴原直利、副担当理事：若山育郎、委員長：貝沼茂三郎、副委員長：岡洋志、栗山一道）
1. 2020年4月10日、4月20日、4月27日、6月26日、8月7日、10月25日、2021年1月30日、3月12日の計8回委員会及びメール会議を開催した。
 2. 2020年度専門医試験を11月22日に行い、48名が受験し32名を合格とした。
 3. 2020年度認定医試験を11月22日に行い、2名が受験し2名を合格とした。
 4. 漢方専門医の更新は、新型コロナウイルス感染蔓延のため認定期間を1年間延長することとした。
 5. 認定医更新の更新は、新型コロナウイルス感染蔓延のため認定期間を1年間延長することとした。
 6. 各地区において教育事業を開催した。

7. 研修施設及び指導医の審査・委嘱を実施し、その整備充実を図った。
8. 専門医通信を2回発行した。
9. 学会ホームページに掲載している専門医情報の整備を図った。
10. 一般社団法人日本専門医機構への申請に向け研修プログラムを整備し、研修システムの充実を図った。
11. 「問題と解説」の改訂作業を進めた。
12. 専攻医登録のシステム化を進めた。
13. 日本専門医機構への対応を引き続き検討した。
14. eラーニングのコンテンツとして医療倫理・医療安全講習会の動画を公開し、専門医・認定医更新や受験の際の更新点数および受験単位とした。

管理事業

〔1〕運営委員会（企画担当理事：山田和男、財務担当理事：小菅孝明）

1. 2020年4月20日、6月22日、8月24日、11月16日、2021年2月15日、3月15日の計6回の委員会、及び新型コロナウイルス感染症に関する研究のための特別ワーキンググループを開催した。
2. 2021年度予算を纏め、理事会に上程した。
3. 2020年度決算を纏める作業を行った。
4. 第71回定時社員総会に推挙する名誉会員について審議し、理事会に上程した。
5. 大塚敬節記念東洋医学賞並びに学術賞及び奨励賞の選考基準の改定について検討し、理事会に上程した。
6. 各賞の選考ガイドラインについて検討し、理事会に上程した。
7. WEB会議にて行われる理事会の運営方法について検討した。
8. 新型コロナウイルス感染症拡大の中での定時社員総会開催方法に関して検討し、理事会に上程した。
9. 学術総会開催時の学会とコンベンション会社との業務委託契約書に関して審議し、理事会に上程した。
10. 第74回学術総会の開催地及び開催日を確認し、理事会に上程した。
11. WEBを利用した学術教育事業について検討し、理事会に上程した。
12. 学術総会DVDの期間限定特別価格販売について検討した。
13. 辞書編纂委員会の委員会名称の変更について検討し、理事会に上程した。
14. 新型コロナウイルス感染症拡大の中での支部総会等の開催実績を纏め、理事会に報告した。
15. 支部・都道府県部会での講演会開催方法と講演会開催システムの業者選定、費用配賦等について検討し、理事会に上程した。
16. 会員メールアドレスの支部・都道府県部会での活用について審議し、理事会に上程した。
17. 支部・都道府県部会における個人情報取扱規程について検討し、理事会に上程した。
18. 会員へ有益な情報を迅速に発信するための全会員に対するメールアドレスの登録依頼について検討し、理事会に上程した。
19. 委員会の再編と、「あり方委員会」の設置について検討した。
20. 各委員会資料のデジタル化について検討し、理事会に報告した。
21. 役員・参事・委員会委員等の秘密保持誓約書について検討し、理事会に上程した。
22. 日本薬剤師研修センターの現状について纏め、理事会に報告した。
23. 新型コロナウイルス感染症に対する観察研究・介入研究・予防研究・後遺症に関する臨床研究のための特別ワーキンググループを立ち上げ、理事会に上程した。
24. 各種激甚災害に対する会費免除案を理事会に上程した。
25. 他団体からの依頼を検討し、理事会に上程した。
26. 理事会からの諮問事項について検討した。

- 〔2〕 広報委員会（担当理事兼、委員長：八重樫稔）
 - 1. 2020年8月3日、9月25日の計2回委員会を開催した。
 - 2. ホームページのアクセスの動向について解析を行った。
 - 3. ホームページの掲載依頼について検討し、実施した。
 - 4. メールマガジンの配信について検討し、実施した。
- 〔3〕 倫理委員会（担当理事兼、委員長：稲木一元）
 - 1. 2021年2月19日開催、公正研究推進協会主催の「全国公正研究推進会議～新型コロナウイルス感染症を経験した世界のニューノーマルな公正研究と教育～」に久永常務理事が参加した。
 - 2. 委員会は、開催されなかった。
- 〔4〕 利益相反（COI）委員会（担当理事兼、委員長：高山真）
 - 1. 2021年3月17日に委員会を開催した。
 - 2. 2020年に改定となった日本医学会COI管理ガイドラインの改定にともなう、本学会のCOIの指針及び細則の改訂作業を行い、確認した。修正点を含めて提案し、理事会に上程した。
- 〔5〕 コンプライアンス委員会（担当理事兼、委員長：並木隆雄）
 - 1. 2020年7月6日に委員会を開催した。
 - 2. コンプライアンス違反行為との申し出について審議を行い、適正な判断を行った。本件については理事会に報告した。
- 〔6〕 医療安全委員会（担当理事：田原英一、委員長：地野充時）
 - 1. 2020年6月11日、2021年1月26日の計2回委員会を開催した。
 - 2. 「漢方製剤に関する薬局ヒヤリ・ハット事例報告」の論文を日本東洋医学雑誌に投稿し受理された。
 - 3. 「医療機関における医療事故・ヒヤリ・ハット事例」の論文を日本東洋医学雑誌に投稿し受理された。
 - 4. 第71回学術総会において、ヒヤリ・ハットについての委員会主催のシンポジウムを開催することを決定した。
- 〔7〕 提言書検討委員会（担当理事：木村容子、委員長：石田和之）
 - 1. 2020年度中は新型コロナウイルス感染症蔓延のため、日本東洋医学会学術総会の延期に従う形で委員会の活動も自粛した。
 - 2. 昨年延期された学術総会提言書検討委員会シンポジウムに登壇予定であった演者1) 大阪大学 萩原圭祐先生 2) 鹿児島大学 乾明夫先生 両先生に、2021年8月に開催予定の次期学術総会においても当初の予定通りにご講演いただけることを確認した。
- 〔8〕 定期刊行物（担当理事：久永明人）
 - 1. 会報を2020年4月、7月、10月、2021年1月の年4回発行した。

事業報告附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の附属明細書として記載すべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。